

1. 北区の魅力を発信！

「北区魅力発信フェスタ」

～まちの魅力を再発見！～

北区市民部地域振興課・石狩市企画経済部企画課・当別町企画部企画課

北区

北区は、札幌市の中でも早い時期に開拓が始まった、長い歴史を持つ由緒ある区です。また、新川さくら並木や百合が原公園など、美しく絵になるような風景が見られる自然豊かな区でもあります。

そんな魅力あふれる北区をもっと知ってもらいたい！そんな思いから、この「北区魅力発信フェスタ」の事業を立ち上げました。

多くの人が行き交う「札幌駅前通地下歩行空間（通称チ・カ・ホ）北3条広場」（以下、「地下歩行空間北3条広場」という。）を、この事業の実施場所に決め、さらに、北区と隣接する石狩市、当別町と連携して会場を盛り上げていくこととなりました。

ここからは、北区、石狩市、当別町それぞれから、まちの魅力や当日の様子、参加した所感などについてご紹介したいと思います。

【北区の魅力とは？】

北区のまちの魅力とは？歴史や文化、自然豊かな景色がまず浮かびます。そのほか、北区には北大を始めとする大学が数多くあることから、「学生が多く住むまち」としての特徴があります。伝統と若者が併存する環境豊かなまち、それが北区です！

そんな北区の魅力を紹介するために、平成28年1月23日（土）～24日（日）に「北区魅力発信フェスタ」において、北区の伝統文化や美しい景色、学生活動を紹介するパネル展や写真展（写真展については29ページで紹介しています）を開催しました。



北区の美しい風景写真を楽しむ観覧者

北区の代表的な伝統文化として、歌舞伎・亜麻・藍染めがあります。これらは地域独自の文化とし

て、地元の地域団体が、保存継承活動を行っていますが、昨今、団体構成員の高齢化による担い手不足が課題となっております。より多くの若い世代に北区の伝統文化を知ってもらい、興味を持ってもらう事が、地域団体活性化の第一歩となりますので、北区内外の若い世代が多く行き交う地下歩行空間北3条広場でPRできたことは、またとない良い機会もなつたと思います。

また、当日は亜麻そばや亜麻の実入りのお菓子を地域団体や大学生が販売し、道行く人々に亜麻の魅力を直に伝えることができました。



亜麻の魅力を知ってほしい！

【若い力で会場を盛り上げる！】

会場で、一際目を引いたのが、学生サークルによる歌やダンスです。あまりにも盛況で、一時は会場に観客が入りきれないほどになりました。学生たちの元気なパフォーマンスで、会場が一気に盛り上がりました。



会場を盛り上げてくれた学生サークル

また、北区保健福祉部の若手職員による絵本読み聞かせ（読み聞かせについては34ページで紹介しています）やバルーンアートのプレゼントなど、多くの若い力が会場に彩りを添えてくれました。ご参加いただいた皆様には本当に感謝しております。

○ お問い合わせ

北区市民部地域振興課
TEL.011-757-2407

石狩市

北区の北隣に位置する石狩市は、人口約6万人、南北約70kmに広がるまちです。石狩管内で唯一、海に面しているため、海水浴場や漁港朝市には、近郊から多くの方が訪れます。北海道を代表する郷土料理「石狩鍋」発祥の地であり、新鮮な魚介類のほか、米や野菜、果物など食にも恵まれています。平成17年には、厚田村（現・厚田区）、浜益村（現・浜益区）と合併し、より一層、まちの魅力が増えました。

「北区魅力発信フェスタ」では、それぞれの地域特性を活かし、石狩市をPRしましたので、その模様をご紹介します。

【ジオラマ「^{はまますにしん ぼものがたり}浜益 鱈場物語」展示】

浜益区は、江戸時代からニシンの千石場所として知られた豊かな漁場でした。ジオラマ「^{はまますにしん ぼものがたり}浜益 鱈場物語」は、往時の繁栄していたニシン文化を後世に引き継ぐために、石黒隆一氏と八田美津氏により制作されたものです。ニシン番屋「^{いしぐろりゅういち はったみつ きゅうしらとりぼんや}旧白鳥番屋」を中心に、70体の人形が沖揚げの様子や番屋での暮らしを再現しています。札幌市での展示は今回が初めてで、幅260cm、奥行き140cmもある巨大なジオラマは、会場でも一際目立ち、精巧な作りに多くの方が足を止めて見入っていました。なお5月から10月の期間は、はまます郷土資料館（浜益区浜益77-1）に常設していますので、ぜひご覧ください。



▲地元ボランティアガイドが丁寧に解説しました



▲浜益区在住の人形作家 八田氏の手作りの人形たち

【『北の海』厚田アクアレール水彩画展』受賞作品展示】

美しい厚田区の風景を水彩画でPRし、地域を盛り上げたい。—そんな住民の思いから始まった水彩画展の作品募集のため、過去の受賞作品6点を展示し、たくさんの方にご覧頂きました。また2日目には、水彩画展実行委員会委員長の^{おおぐろとしかつ}大黒利勝氏による描画実演も行い、下絵も無く即興で厚田の風景を描くその姿に、来場者からは「素晴らしい」と感嘆の声が。誰もが手軽に取り組める水彩画の魅力のアピールすることができました。



▲北の海が織り成す風景を描いた力作が並びました



▲即興でパフォーマンスを披露する大黒氏

1. 北区の魅力を発信！

【縄文土器の文様作り体験コーナー】

石狩市には、縄文時代中期の川の跡から日本最古級のサケ捕獲施設が発見された「石狩紅葉山49号遺跡」があります。この貴重な遺跡にちなみ、縄文土器の文様作りを体験できるコーナーを開設しました。粘土に紐やへらなどで、自由に文様を付けていきます。いしかり砂丘の風資料館の学芸員に教えてもらいながら、大人も子どもも気軽に楽しく作ることができるので、予想以上に希望者が多く、たくさんの方に体験していただくことができました。



▲思い思いに文様を付ける参加者



▲子どもも楽しく体験できました

【最後に】

ほかにも、全国的にも希少な自然海岸である石狩浜の美しい風景を撮影した写真コンテストの応募作品展示も行いました。また、特産のサケを使用した「鮭醤油」や「鮭そば」をはじめ、地元野菜や果物、どら焼きなど特産品の売れ行きも好調で、完売する商品が続出しました。

今回の「北区魅力発信フェスタ」では、隣町同士がお互いの強みを活かしながら、互いに連携したことで、全体的に多くの来場者で賑わい、単独で行うよりも非常に効果的なシティプロモーションができたと思います。これからも近隣市町村と

広域的に連携しながら、地域の魅力を発信していきます。



▲四季折々の石狩浜の風景を写した写真



▲石狩を代表する特産品が勢揃い



▲公認キャラクター「さけ太郎」「さけ子」も会場を盛り上げました

○ お問い合わせ

石狩市企画経済部企画課
TEL.0133-72-3161

当別町

「亜麻」から「人」へ

～「北区魅力発信フェスタ」に参加して～

学園都市線で10分（あいの里教育大駅から石狩太美駅）、北海道医療大学がそれぞれにキャンパスを構え、4車線となった札幌大橋が「かけはし」となっている札幌市北区と当別町。「札幌市の北隣・・・」。当別町をご存じない方に、必ず使うフレーズですが、「お隣」のなかでも最も近い北区とは、これまでも『「亜麻のフラワーロード」づくり』などの「お付き合い」をしてきましたが、まだまだ・・・というところでした。

「お付き合い」するには、お互いをよく知ることが必要・・・ということではありませんが、昨年1月に開催された「北区魅力発信フェスタ」は、北区の魅力と並んで当別町の魅力を発信する場として、お互いのことを知る格好の機会となりました。

北区というと「あいの里」に代表される文教のまち、麻生に代表される交通の要所といったイメージがありましたが、「北区歴史と文化の八十八選」の動画に見る「まちの歴史」は、これまで目にしたことがない「発見」の連続でしたし、北大生をはじめとする大学生のみなさんの活発な活動の様子は、「まちの勢い」を感じさせてくれました。

当別町では、地元で評判のパンを販売（早々に完売する人気でした）したり、雪と氷のイベント「アイスヒルズホテル」のPR動画を流したりでしたが、札幌市のみなさんには、「北の隣人」として認知いただけたでしょうか？

『「亜麻のフラワーロード」づくり』は、当別町と北区の間のJR学園都市線に沿ってに亜麻の花壇を整備しようというもので、JR石狩当別駅前の花壇には、毎年、亜麻の可憐な花が咲きそろいます。

亜麻は繊維原料として大正から昭和のはじめまで北海道各地で盛んに栽培されていました。しかし、化学繊維の普及に伴って、終戦後、その栽培は激減し、昭和40年代には、その姿は消えてしまいました。「麻生」の地名があるように、往時は、亜麻の茎から繊維を採取する工場が北区にあって、当別町で栽培された大量の亜麻が使われていたこ

とが記録に残っています。

毎年7月に当別町で開催される「亜麻まつり」には、札幌市から多くの方がいらっしゃいます。また、今年9月には、札幌大橋を渡って程なく右手に、「（仮称）北欧の風 道の駅 とうべつ」がオープンします。かつての「亜麻の流れ」から「人の流れ」へと、隣同士の「お付き合い」がこれまで以上に進んでいくことを願っています。



当別町スウェーデンヒルズから札幌市街を臨む



札幌市と当別町をつなぐJR学園都市線（当別町側より）



9月オープン予定「（仮称）北欧の風道の駅 とうべつ」（イメージ）



「（仮称）北欧の風道の駅 とうべつ」予定地



○ お問い合わせ

当別町企画部企画課
TEL.0133-23-3073

1. 北区の魅力を発信！

北区の魅力をPR「北区写真展」

北区市民部総務企画課

北区には、たくさんの美しい自然景観や歴史的建造物があるほか、区内各地域で魅力あるイベントやまちづくり活動が行われています。北区ではこれらの景色や活動の様子を紹介した「北区写真展」を毎年開催しています。

この事業は、写真展に訪れる多くの方々に北区に関心を持ってもらい、写真を通じて北区の魅力を再認識、再発見してもらうほか、撮影場所やイベントなどに実際に訪れたり参加したりしてもらうことで、北区に賑わいや活気をもたらす効果が期待されています。

写真展の会場は、身近に訪れることができる区役所や各地区センターなどを利用していますが、平成26年度からは、道内連携の取り組みとして、石狩市民図書館も会場の一つとして開催していま



「北区写真展inチ・カ・ホ」の様子

す。近隣市町の方にも、北区の魅力を知ってもらい、北区の名所やイベントに足を運んでもらうきっかけとなっています。

また、平成28年1月には、札幌駅前通地下歩行空間（通称「チ・カ・ホ」）北3条広場で開催された、北区と隣接する石狩市と当別町との合同イベント「北区魅力発信フェスタ」で「北区写真展inチ・カ・ホ」を実施。北区にとどまらず、道行く多くの市民の方々に足を止めて見てもらうことができ、北区の魅力を十分にPRすることができました。

その他、秋の「百合が原紅葉祭り」に併せて開催するなど、イベントに集まった方にも写真展を楽しんでもらえるよう取り組んでいます。

展示している写真は、会場により約30～80点ほど。区役所職員が撮影した写真のほか、市民の皆さんからご応募いただいた写真を使用しています。北区では「あなたが撮った北区の街・人・風景」として、区内で撮影された街並みや地域の行事な



石狩市民図書館の展示

◆北区の魅力をPR「北区写真展」

どの写真を随時募集しており、この写真展にもこれまでの応募作品を多数展示しています。

色とりどりの花が美しい百合が原公園や北大のイチョウ並木、新川のさくら並木など、プロ顔負けの写真が並び、応募者の皆さんにとっても作品発表の場となるほか、この写真展を通して北区のまちづくりに参加できるといった一面もあります。

写真展に訪れた方からは「写真で初めて知る場所や行事があり驚いた」「北区がもっと好きになった」などの感想が寄せられています。写真展開催の際はぜひ会場に足を運んでいただきますよう、よろしくお願いいたします。

◆応募作品の一部◆



百合が原公園ダリア園



北大イチョウ並木



篠路町拓北の田園風景



札幌北高校行灯行列

◆職員撮影のまちな行事◆



新川さくらフェスティバル音楽祭



しろ健康づくりの会
ウォーキング



屯田地区ふれあい交流
もちつき大会



あさぶ三代げんき広場



安春川子ども
サマーフェスティバル

北区では皆さんが撮影した北区の写真を募集しています。写真は北区内で撮影した街並みやお祭りなどの行事の様子、自然あふれる風景などで未発表のものが対象です。ご応募いただいた写真は、北区写真展のほか、広報さっぽろ「北区民のページ」の表紙などで使用しています。

皆さんからのたくさんのご応募をお待ちしています！

○ お問い合わせ・応募先

北区市民部総務企画課
TEL.011-757-2503

Eメール
ki.somu@city.sapporo.jp

1. 北区の魅力を発信！

屯田郷土資料館

屯田郷土資料館運営委員会 会長 ^{さかた}坂田 ^{ふみまさ}文正 説明員 ^{みやざわ}宮澤 ^{ひでお}英夫 ^{おざわ}小澤 ^{たかし}隆

【屯田郷土資料館の誕生について】

昭和63年（1988年）は屯田兵とその家族が入植して百年を迎えた年で、屯田の人口は一万七千人を超えていました。

開基百年を記念して屯田連合町内会が中心となって屯田開基百年記念協賛会を設立し、その協賛会の特別委員会の1つに、屯田郷土資料館建設委員会が設けられました。

委員会の構成メンバーは屯田兵の子孫の方と当時の農事組合関係の方々でした。

委員会で話し合われたことは「こんなに屯田が発展したのも基をたどれば、祖先の屯田兵とその家族が死に物狂いで頑張ってくれたおかげだ。」ということでした。

同年札幌市が、屯田5条6丁目に屯田地区センターを建設する事が決定したことから屯田開基百年記念協賛会の代表が、屯田兵とその家族が努力したことを後世に伝えることが必要であることを札幌市に伝え、市当局のご協力をいただいて屯田地区センターに併設し、二階建ての屯田郷土資料館を開設しました。

そして、屯田郷土資料館の開設にあたって、元屯田土地改良区から当会に1億円の寄付金を頂きましたことを記述致します。

【入植地までの旅】



明治22年（1889年）政府の乗客船相模丸で和歌山、徳島、山口、福岡の4つの県の屯田兵とその家族を乗せて熊本港に着き7月7日に熊本県の人たちが乗

船し日本海を北上しました。途中北陸の坂井港（現在の三国港）で石川、福井県の人たちを最後に乗せ、小樽港に向かいました。

この船の中には、7つの県から220人の屯田兵とその家族1,056人が乗っていました。

7月14日に小樽に到着して、小樽で一泊し、翌日に幌内鉄道で小樽を出て琴似に着き、琴似から歩いて屯田（入植時の地名 篠路兵村）に入植したのです。

【1階の展示物について】

・農機具

昭和10年から40年頃まで、屯田兵と子孫が主に水田耕作に使われた農機具が大小30点以上展示されています。

足踏み脱穀機、除草機、たこ足直播機、プラウ、型付器など貴重な農機具が直視できます。



・屯田兵屋

明治22年に建設された屯田兵とその家族が住んでいた兵屋を解体し、館内に復元されました。

その基本原型をとどめ往時をしのぶ唯一の建造物であります。この兵屋が平成2年に さっぽろ文化百選の中に選ばれました。



【2階の展示物について】

- ・4個のガラスケースには屯田兵とその家族が書き残した書類、屯田兵採用願、明治時代の教科書、小説などがあります。



- ・映像によるクイズを楽しむゲームがあり、子ども達が頑張っている姿を見ることが多いです。



- ・奥の壁には、屯田兵とその家族が日常生活に用いていた^{がいたう}外套、^{かくまき}角巻、タンス、履物などが置かれています。



- ・この資料館が開設した時、屯田地区内の学校に通学していた小・中・高の生徒が「未来の屯田」を想像して描いた水彩画が20展以上掲示されています。その他、屯田開基から現代までのくわしい屯田略年表が展示されています。



【入館者について】

平成27年は月平均150人程で、開設以来平成28年10月末で累計63,612人です。入館者の多くは北区

在住の方ですが、他の区や道内の市町村、そして道外の方も見学に訪れてくださっています。

団体では北区の小学校や高齢者のデイサービスからも見学にきます。説明員が常駐していますので、団体の方々に説明しながら見学していただけます。



【利用案内】

- 開館日：火曜日から日曜日まで、午後1時～午後4時
- 休館日：毎週月曜日及び年末年始（12月29日～1月3日）
- 住 所：札幌市北区屯田5条6丁目3番21号（屯田地区センター併設）
- 駐車場：完備
- 交 通：①地下鉄麻生駅から中央バス屯田6条12丁目行（01、麻01番に乗車）
（所要時間 約10分）バス停「屯田5条7丁目」下車 徒歩約3分
- ②札幌ターミナルから中央バス屯田6条12丁目行（02番に乗車 東1丁目経由）
（所要時間 約35分）バス停「屯田5条7丁目」下車 徒歩約3分
- 入館料：無料

【おわりに】

屋内で屯田兵屋も見ることができ大人の方には懐かしく、小・中学生には札幌の歴史を学べる貴重な施設です。

多くの方々にご来館いただけることを願っています。

○ お問い合わせ

屯田地区センター
TEL.011-772-1811

1. 北区の魅力を発信！

コラム② 北区各コミュニティ施設における展示について

北区ではそれぞれの地域ごとに様々な歴史と文化が根付いています。ここでは屯田郷土資料館以外の区内コミュニティ施設における文化的活動や、歴史的資料の展示について一部紹介いたします。

○篠路コミュニティセンター

篠路コミュニティセンター1階ロビーには、篠路歌舞伎、篠路の藍についての常設展示があります。

篠路歌舞伎の様子を写した写真パネルや、実際に使用していた道具、藍栽培の歴史に関する資料などが展示されており、篠路の歴史と文化を知ることができます。



篠路歌舞伎に関する展示資料



篠路における藍の歴史に関する展示資料

○太平百合が原地区センター

太平百合が原地区センターでは1階アトリウムを利用した展示会が随時開催されています。

文化フェスタや、北区学校給食展、地域小中学校作品展などの他、サークルや地域の方が日頃の成果である絵画や押し花などの作品を展示し、文化活動の発表の場ともなっています。



文化フェスタの作品展示

○北区民センター

北区民センター1階ロビーでは区民文化祭の作品展示の他、「世界に一冊だけの本・展 in さっぽろ」や、姉妹都市パネル展などさまざまな展示が行われています。

また、2階には北区における藍栽培の歴史についてのパネル等が常設されており、往事の様子を今に伝えています。



「世界に一冊だけの本・展 in さっぽろ」

【お問い合わせ】 北区市民部地域振興課 TEL.757-2407

コラム③ 北区職員プロジェクトの 取組み

北区保健福祉部職員プロジェクトでは、地域イベントへの参加を通じて、市政への関心意欲を高めるとともに、広い視野を持って日常業務に携わる人材育成を目的として活動しています。ここでは、最近行ったプロジェクト活動をいくつかご紹介します。

【来庁者向け絵本づくり】

北区役所や北保健センターに手続き等で来庁される方が待ち時間を快適に過ごせるよう、北区の歴史や伝統文化、自然景観にちなんだキャラクターを考案し、子ども向け（主に幼児が対象）の絵本を作成しました。絵本をご覧になった子ども達が北区の魅力に興味を持てるように、職員が手作りでイラストや内容を考えています。

絵本の中では、北区の景観スポットの北大ポプラ並木をイメージした「ほぶらちゃん」や北区伝統芸能である、新琴似歌舞伎・篠路歌舞伎からイメージした「かぶきくん」、北区開拓の歴史から「とんぺいくん」が登場します。北区役所（1階9番窓口付近、2階24番窓口付近）と北保健センター1階の文庫コーナーに置いておりますので、ぜひお手に取ってご覧ください。



絵本の表紙



かぶきくん



とんぺいくん

【北区魅力発信フェスタへの参加】

平成28年1月23日（土）と24日（日）の2日間、札幌駅前通地下歩行空間北3条広場で開催された「北区魅力発信フェスタ」に参加しました。これは、隣接している札幌市北区・石狩市・当別町が連携し、地域の美しい風景や、歴史文化、特産品などを紹介することで、地域の魅力を再発見してもらおうと企画されたイベントでした。

会場内では、職員が作成した絵本を大きなスクリーンにて上映したり、絵本の内容を紙芝居にして読み聞かせを行い、来場者に楽しんでもらいました。



1. 北区の魅力を発信！

このイベントに参加したことにより、多くの市民の皆様にも北区の歴史や文化について興味を持ってもらえるきっかけになりました。



【「GO！GO！きたっこ夏まつり」への参加】

平成28年8月3日、北区民センターで行われた子ども向けイベント「GO!GO!きたっこ夏まつり」には、事前準備と当日スタッフとして、参加しました。

イベントに向けた事前準備では、地域のボランティアスタッフとともに、ゲームの景品となる遊具を作成しました。地域の子供たちがもらって喜ぶような色合いや形を考えたり、子供たちが遊具で怪我をしないよう工夫をしたりと試行錯誤しながら、ボランティアスタッフと交流を深めました。

イベント当日は、受付や運営スタッフとして、学生ボランティアとともに、会場設営やゲームの進行を行いました。ヨーヨーすくいやじゃんけんなどのゲームを通して、地域の子供達と触れあいました。子供達は、気に入ったゲームに再挑戦したり、兄弟や友達同士で景品を交換するなど、ゲームを楽しんでいました。



【お問い合わせ】 北区保健福祉部保健福祉課 TEL.011-757-2470